

# 平成28年度 公益財団法人滋賀県陶芸の森事業計画

## ◇基本方針ならびに重点事項

陶芸の森は、滋賀県の伝統文化にして主要な地域産業である信楽焼をベースに、「陶芸文化創造の世界的拠点」となることを目指し、自然の中での創造と遊び、文化と産業が一体となった多様な機能をもつ公園として、またこれまで蓄積してきた情報収集力や技術力、国内外の人的ネットワーク、研究成果、収蔵作品等の活用、施設管理などのノウハウを基盤にし、陶芸館・信楽産業展示館・創作研修館の三つの施設運営を通じて県民の陶芸に対する親しみと理解を深める場として、地域性と国際性および現代性を備えた魅力ある事業の積極的な展開を図り、陶器産業の振興と陶芸文化の向上に寄与する。

昨年度は陶芸の森開設25周年を迎え、これまでの検証と更なる情報の発信の機会ととらえ多彩な記念事業を実施し、多くの参加者を得て成功裏に終えることができた。今年度は指定管理者として新たに公益財団法人滋賀県陶芸の森の指定を受けた初年度となる。30周年に向けて第3期中期経営企画を策定し、次のステップへのスタートの年としたい。

また10月には、今回で第3回目となる信楽まちなか芸術祭が信楽一帯で開催される。陶芸の森も会場のひとつとして協力し、陶芸関係者やまちなかの方々が訪れる交流の場として産地の活性化へとつなげると共に信楽への誘客促進を図る。

## 第1 県民に親しまれる施設運営に関する事業

### 1. 公園機能の充実

太陽の広場や星の広場など人々が自由に憩い楽しめるよう公園機能の充実を図り、また施設を安全かつ清潔に保ち、植栽の維持管理をおこない、入園者に快適な空間の提供とサービスの向上に努める。

#### (1) 陶芸作品の野外展示

陶芸の森という施設の名にふさわしく、滞在した陶芸家の創作作品を野外設置し、いわば野外美術館として整備してきた。今年度の陶芸館展覧会では館内と野外作品とを融合させ、自然の中で広く芸術作品を鑑賞できる機会を提供する。

#### (2) 窯の広場

現在、穴窯をはじめとする薪窯が7基点在している。多くの種類の窯を持つことでつくり手である陶芸家のモチベーションをあげ、また、「しがらき学ノススメ！」等の講座のバリエーションを増やすことができる。また、来園者には活きた薪窯を見られることで、陶芸の森らしい園内散策のポイントとする。

#### (3) 花咲く公園

来園者に楽しんでもらうために、昭和時代に信楽焼の主力製品であった各種火鉢を歩道沿いに設置して火鉢ロードと命名し、植木鉢とし活用している。そこに植栽したハーブや草花、また園内の花木を適切に管理する。その他、紹介看板等を必要に応じて更新していく。

#### (4) エクステリアゾーン

信楽産業展示館周辺にガーデンセットなどのエクステリア商品を設置し信楽焼の強みとされる大型陶器を展示し来園者に実際に使用してもらう。

## (5) ボランティア活動推進事業

来園者に対するサービス向上と陶芸文化の普及活動のため、展覧会展示解説、連携授業補助、園内の案内およびPR活動、陶芸館展示監視補助、園内園芸作業などボランティアによる活動支援を受け、利用者へのきめ細かなサービスを提供する。また活動の推進やボランティア同士の連携を目的としたミーティングを開催し、ボランティア活動の向上のための研修を実施する。

## 2. 地域の観光拠点としての集客促進事業

滋賀県南部地域の観光拠点のひとつである陶芸の森では、地域資源の信楽焼を活かした集客促進のための事業を行う。

そのひとつとして、やきものファンに信楽をより知ってもらうために、各種講座や陶器市等の様々なレクリエーションイベントを開催し、来園者にとって魅力的な陶芸の森を創り、リピーターの増加に努める。また(公社)びわこビジターズビューローや観光協会等と連携し、陶芸の森を含めた信楽の地域資源を活かした観光ルート等の提案やPRを行う。

### (1) しがらき体験 しがらき学ノススメ!

陶芸の森の施設を活用して信楽焼について広く学んでもらえるように陶芸制作講座を開催する。技法別の講座や穴窯による作品の制作など幅広いテーマを取り上げる。団体向けには、目的にあった講座を別途受け付けることで増収を図る。

#### ア. 実技講座シリーズ

やきものについて、広く学べる実技講座を開催する。内容については、初心者向けの講座から、一步踏み込んだ高度な技術を伴う講座まで開催する。

#### (ア) 野焼きの作品を「つくる」【新規】 公募展「マイヤー×信楽大賞」関連企画

＜開催日＞ 成 形 : 5月15日(日) 講師: 細川政己  
磨き、仕上げ: 5月21日(土)  
野 焼 き : 5月29日(日)

公募展への出品作家である細川氏を講師に迎え、粘土5kgを使用し壺などを制作、野焼きまでを体験する。成形、磨き、野焼きの3工程を通じて野焼きの面白さを探る。

#### (イ) ラク焼の茶碗をつくる

＜開催日＞ 5月29日(日) 講師: 奥田英山

粘土3kgで茶碗を制作し、後日ラク焼で焼成する。茶碗の制作とともにラク焼の焼成技術の習得を目指す。

#### (ウ) 食卓を彩るうつわをつくる

＜開催日＞ 6月19日(日) 講師: 小川顕三

陶芸初心者を対象にした入門講座として開催し、普段使いの飯椀、湯飲み、取り皿をつくる。やきものを制作する基本技法である手びねりの習得を目指す。

#### (エ) ミニ窯をつくる

＜開催日＞ 7月3日(日) 講師: 越沼信介

手びねりでぐい呑み数個が焼けるミニ窯をつくる。後日窯で素焼して、炭を燃料にした焼成を行い、窯の仕組みの理解と焼成を体験してもらう。

#### (オ) 練り込みのうつわをつくる

＜開催日＞ 7月10日(日) 講師: 村田 彩

色土を練り合わせて模様を作り出す「練り込み」の技法で皿や鉢などのうつわをつくる。

#### (カ) 美しき豆皿をつくる 特別展「珠玉の湖東焼」関連企画

＜開催日＞11月20日（日） 講師：神山直彦

陶芸家の指導のもとに自分デザインの皿を5枚つくる。

**(キ) イッテコイ窯で作品をつくる**

＜開催日＞11月27日（日） 講師：小牧鉄平

イッテコイ窯で作品を焼成する講座を開催する。粘土3kgで茶碗、食器など自由に作陶し、必要に応じて施釉する。イッテコイ窯で焼成することで、薪の単窯での焼成の妙味を体験してもらう。

**(ク) お正月を祝う華やかな器を上絵付けする 特別展「珠玉の湖東焼」関連事業**

＜開催日＞12月4日（日） 講師：渡部味和子

お皿に上絵付けの技法で絵付けをする。

**(ケ) ラク焼きの茶碗をつくる 茶会を愉しむ**

＜開催日＞3月12日（日） 講師：奥田英山

陶芸家であり茶道の師範でもある奥田氏を講師に粘土3kgで茶碗を制作し、後日ラク焼で焼成する。茶碗の制作とともにラク焼の焼成技術の習得を目指す。また、後日焼成した茶碗を持参し茶会を行う。

**イ. 穴窯体験講座**

信楽焼の伝統技術、歴史を広く一般の方に知ってもらうため、信楽在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、穴窯で焼成をする体験を通じて知識と技術の普及と公開を図る。初級、中級、上級講座と各クラスで募集する。初級については、初心者を中心にわかりやすい作り方の指導を行い、信楽焼に対する関心や理解を深める。中級は一步踏み込んでより高度な技術の習得を目指し花瓶などを制作する。また上級講座では大壺などを制作し、高度な技術の習得を目指す。

**◎ 初級講座1 信楽焼のうつわをつくる**

＜開催日＞9月11日（日） 講師：大西左朗

陶芸家の指導のもと、食器・茶碗などを自由に作陶する。

**◎ 初級講座2 信楽焼の干支をつくる**

＜開催日＞9月25日（日） 講師：八幡 満

陶芸家の指導のもと、平成29年の干支・酉の置物をつくる。

**◎ 中級講座 信楽花入れをつくる**

＜開催日＞10月2日（日） 講師：西尾瑞舟

リピーターや少し高度な技術習得を目指す方を対象に陶芸家の指導のもと、花入れを作陶する。

**◎ 上級講座 信楽大壺をつくる**

＜開催日＞10月29日（土）、30日（日） 講師：神崎継春

高度な技術の習得を目指す方を対象に粘土10kgで大作の大壺を2日間にわたって作陶する。

**◎ 初級講座3 信楽酒器をつくる**

＜開催日＞11月13日（日） 講師：五代 高橋楽斎

初心者の方を対象に、陶芸家の指導のもと、片口・ぐい飲み等の酒器を作陶する。

**ウ. 穴窯焼成クラスの開催**

＜開催日＞説明会：7月3日（日）

焼成日：11月上旬

焼成クラスについては、穴窯体験講座のリピーター等の経験者を対象に、30kgの粘土を

渡し各々が作品づくりを行うだけでなく、自ら穴窯での焼成することにより、薪による焼成技術の習得も目指す。穴窯講座のリピーターの受け皿として機能させていく。

## エ. スイッチバックキルン焼成クラスの開催

＜開催日＞説明会：9月3日（土）

焼成日：2月中旬

3年前に築窯したスイッチバックキルンという従来の薪窯とは異なった構造の窯を利用し、火前・後ろの差ができてにくい作品をつくる。20kgの粘土を参加者に渡し、各々が作品づくりを行うだけでなく操炉技術の習得を目指す。

## オ. 登り窯講座

信楽焼の伝統に基づき表現の幅を広げるため、従来から穴窯を積極的に活用してきたが、信楽在住の陶芸家による指導のもと実際に作品をつくり、登り窯（火袋、一の間）で焼成する体験を通じて登り窯の知識と技術の普及および公開を図る。

講座は、中級、上級講座に分けて募集する。中級についてはわかりやすい作り方の指導をし、信楽焼、登り窯焼成に対する関心や理解を深めてもらう。上級は、一步踏み込んでより高度な技術や大物の制作技術の習得を目指す。

### ◎ 中級講座 信楽壺、蹲をつくる

＜開催日＞8月11日（木・祝） 講師：六代 上田直方

粘土5kgで陶芸家の指導のもと、壺・蹲を作陶する。

### ◎ 上級講座 信楽大壺をつくる

＜開催日＞9月3日（土）、4日（日） 講師：篠原 希

粘土10kgで大壺を2日間にわたって作陶する。

## カ. 登り窯 グループ参加の部

参加者をグループで募り、広く業界や県内の陶芸関係者、陶芸教室等に呼びかけて作品を集め登り窯にて焼成し、薪窯による釉薬作品焼成の技術の保存と普及を行う。焼成は参加者に担当してもらう。

## キ. 団体受付「京都造形芸術大学通信学部 陶芸スクーリング in 信楽」事業

＜開催日＞平成28年6月の週末（金・土・日）の3日間

＜参加者＞通信学部3年次生 25名～30名

手びねりによる、30～40cm程度の花瓶などの制作および町内を見学する。

## (2) イベントの開催・誘致

陶芸の森を舞台に軽スポーツ、芸能、レクリエーションなど各種イベントの自主開催や公園利用者にとって魅力的で集客効果が見込めるイベント等を誘致する。特に春の連休には、地域グループの主催による陶器市を開催する。

### ア. 第10回 信楽作家市 in 陶芸の森の誘致

＜開催日＞5月2日（月）～5日（木・祝）

＜主 催＞信楽作家市 in 陶芸の森実行委員会

＜後 援＞公益財団法人滋賀県陶芸の森

信楽町内の陶芸家を中心に組織している信楽作家市 in 陶芸の森実行委員会と共催で、5月の連休に「手づくりのやきもの」を販売するイベントとして開催する。

### イ. 第21回 信楽セラミック・アート・マーケット in 陶芸の森の開催

＜開催日＞10月8日（土）～10日（月・祝）

「作品に触れ作家に触れる」をテーマに滋賀県内の陶芸家を中心とする工芸家が、自らつくった質の高い作品を販売する「作り手と使い手の出会いの場」として開催する。

#### ウ. 甲賀市商工まつりの誘致【新規】

<開催日>10月16日（日）

<主催>甲賀市商工会

<後援>公益財団法人滋賀県陶芸の森

甲賀市商工会が主催する「商工まつり」を陶芸の森太陽の広場で開催する。

#### エ. わくわくウォーキング in 陶芸の森

<開催日>12月11日（日）

陶芸の森園内および周辺散策路を利用し、ウォーキングを通して陶芸の森の豊かな自然を満喫してもらう。園内に設置された野外作品の鑑賞やニュースポーツ体験を実施することにより、幅広い年齢層が楽しめる企画として開催する。

#### オ. 陶芸の森フォトコンテスト

<募集期間>5月1日（日）～10月31日（月）

四季折々の変化に富み、豊かな自然に恵まれた陶芸の森を素材として、フォトコンテストを行い、それをきっかけとして陶芸の森の魅力発信と公園機能の活用を図る。

また、同じテーマで年間を通じて写メールを募集。魅力的な写真をSNSで紹介することにより、気軽に陶芸の森とのつながりを持つ機会を創出し、陶芸の森ファン層の形成に努める。

#### (3) 作品の貸出事業

県民に気軽に陶芸に親しんでもらえるよう、創作研修館で制作されたスタジオ・アーティストの研修作品やゲスト・アーティストの作品を、ホテル、公共施設等に貸出しを行い、陶芸文化の普及向上に努める。

#### (4) 観光および集客促進のための広報活動

滋賀県南部地域の観光拠点としての陶芸の森を広くアピールし、多くの観光客を集客するために各種メディアへ積極的にパブリシティを行うとともに、(公社)びわこビジターズビューロー等と連携し、団体客の誘致にむけた積極的なPRに努める。

#### (5) 地域拠点活用事業

25周年記念事業を機にまちなかギャラリーとして改修を行った旧藤喜陶苑を、地域拠点として活用する。地域の様々な団体と連携し、展示会やレクチャー、ワークショップ、フードイベントなどを開催する。

#### (6) 図書室の運営

陶芸に関する専門機関の図書室として、専門書など蔵書の一部を閲覧、貸し出すことで、業界や一般に広く陶芸文化の普及を図る。

#### (7) レストランへの施設貸与【収益事業】

甲賀市の許可を得た業者に信楽産業展示館内の一室をレストランとして貸与し、来園者へのサービス向上と陶芸の森への集客を図る。

#### (8) 信楽ホールの活用【収益事業】

県民の陶芸に対する理解と親しみを深めてもらい文化の向上を図るとともに陶芸に関する交流の場とするため、信楽ホールの活用を図る。

### 3. 施設の管理

地域の産業、文化および観光の拠点施設としての機能と、来園者にやすらぎを感じてもらえる施設として良好な状態を維持し、一層利用が図られるよう、日々巡回しながら適切な維持管理に努め、また各施設のバリアフリーにも配慮し、子どもや高齢者、障害者の方にも利用しやすい施設管理に

努める。

#### 4. 陶芸の森やきもの振興基金の周知活動

平成25年に創設した「陶芸の森やきもの振興基金」への寄付金をお願いするため、陶芸の森での様々な事業活動を行う中で、ご支援をいただけるよう周知活動を行う。

## 第2 陶芸文化の発信事業

### 1. 展覧会開催事業

個性豊かなコレクションを核に陶芸館では、これまで時代の動きをいち早く捉え、新しい視点を交えながら、魅力ある展覧会を企画発信し、やきもの文化の幅広い魅力をさらにアピールしてきた。

今年度の展覧会開催事業では、とくに新しい世代にも広がる「やきもの」ファン層の掘り起こしと、地元滋賀のやきものに焦点をあてた企画を展開していく。陶芸の森の多彩な特性を発揮して陶芸の専門美術館として、その動向を探求したまた滋賀のやきもの文化の伝統を軸にさらにその魅力を、展覧会等を通して発信し、滋賀文化のブランド力向上を目指していく。

また、来園者の少ない冬季（12月中旬～3月上旬）には陶芸館を休館し、調査研究・普及啓発活動をはじめ、収蔵品のデータ整理とコンディションチェック、また展示什器類のメンテナンスを行う。

#### (1) 公募展「マイヤー×信楽大賞 伝統と革新—日本陶芸の今」

＜開催期間＞4月1日（金）～6月12日（金） 63日間 （平成27年度から継続）

世界有数の湖を擁する滋賀県とアメリカ・ミシガン州の姉妹友好関係を契機とした、フレデリック・マイヤーガーデンズ&スカルプチャーパークとの日米共同企画による公募展。伝統の技に美を追究した作風、陶の可能性と限界に挑む表現や現代のうつわなど、285点の応募から日米の審査員が選考した入賞・入選作26点を紹介。多様な様相を示す現代陶芸の一断面を取り上げ、その未来像を模索してゆく。本展会期中「近江のやきもの」を同時開催、信楽焼をはじめ個性豊かな近江の陶窯を紹介する。

本展会期中「二口尚弘茶器コレクション寄贈記念 お茶のうつわ物語」展を同時開催する。

#### (2) 特別企画展「インサイド×アウトサイド — 陶芸の森アート・クルーズ」

＜開催期間＞6月19日（日）～9月23日（日） 90日間

春の桜や夏の睡蓮、秋の紅葉と冬の雪景色など、緑豊かな自然のなかに個性豊かな野外作品が点在する「陶芸の森」。四季折々の景観とともに、さまざまな表情をみせる野外作品は、「やきもの×アート×自然」の関係を象徴するものといえよう。この展覧会では、広大な園内に展示された野外作品の魅力を、同一作家の所蔵作品などを道しるべに紹介。自然とアートが融合した陶芸の森のオープン・エア・ミュージアムとしての特性を幅広く発信してゆく。

#### (3) 特別展「珠玉の湖東焼」

＜開催期間＞10月1日（日）～12月18日（日） 61日間

湖東焼は、江戸時代の後期に彦根城下の商人・絹屋半兵衛が始めた陶磁器で、彦根藩の御用窯として知られる。優れた幕臣でもあり、また文化人であったといわれる13代藩主・井伊直弼らの庇護をうけて優品が生み出された。当時は殖産興業の一環として各地で陶磁器生産が行われたが、数ある地方窯の中でも湖東焼は名品を生み出したことで知られる。本展は、名品約100点を一堂に集め、湖東焼の全貌を紹介する初めての本格的な展覧会となる。

#### (4) 特別企画展「“うつわ” ドラマチック」

＜開催期間＞3月11日（土）～31日（木） 18日間 （平成28年度へ継続）

これまで現代陶芸を紹介する美術館として、日本を含めさまざまな国々の陶芸を紹介してきた。その中でバーナード・リーチを先駆けとしルーシー・リーに続く作家たちは、“うつわ”が使う器から、魅せる器へとその美の領域を広げていった。このような流れは、戦後のさまざまな国々においてその道筋に違い見られるが、共通する潮流としてみることができ、またこの展開に焦点をあてることは、現代の陶芸を知る上で重要な取り組みである。

“うつわ”の中に追い求めたつくり手たちの美は、ひとつの作品としての存在から、それら“うつわ”をとりまく空間に広がり、陶芸の可能性や魅力を押し広げている。世界各地の陶芸家たちの“うつわ”の美を、近年活躍中の若手作家にいたるまで紹介する。

#### (5) 陶磁ネットワーク会議への参加

平成20年度に結成された県立8館の陶芸専門美術館による「陶磁ネットワーク会議」は、加盟館同士の交流や情報交換を進め、共同企画展の開催、共同研究、共同広報、各館所蔵品の相互利用、緊急時の協力体制の強化などを目的とする。本年度は、愛知県陶磁美術館を幹事館として開催される本会へ出席する。

#### (6) 収蔵品収集管理事業

陶芸館では収蔵品収集に際して、国内外の陶芸に造詣が深い学識経験者や美術館館長らで組織される陶芸館収蔵品収集審査会を隔年で開催し、候補作品について審議している。また、価格評価に関しては、外部の有識者で構成する収蔵品価格評価委員により審議を行っている。

そのほか、台帳の整備や危機管理への対策も計画的に実施し、作品に関する記録保存、盗難および地震対策、カビや共箱の虫食い防止など、収蔵作品の管理と活用、保全に必要な種々の業務を実施している。今後も継続して収蔵品および収蔵庫の点検整理作業を実施し、作品の有効活用と保存環境の整備に努めるとともに、展示什器や機器の整備を進める。

#### (7) 陶芸館ギャラリー企画展

陶芸館ギャラリーは、気軽に利用できる無料展示スペースである。これまで陶芸の森の役割や事業を、理解していただく情報発信の場として活用してきた。今年度は信楽焼の基礎を学ぶ企画やアーティスト・イン・レジデンスで滞在したゲスト・アーティストの企画展を加えて、陶芸の森の独自性を示していく。

##### ア. 「信楽×矢部俊一×備前」

＜開催期間＞4月2日（土）～5月5日（木 祝）

昨年度ゲスト・アーティストの矢部俊一氏による滞在成果発表展。オープニングにはアーティスト・トークを行い、作家同士、または地域住民との交流を図る。

##### イ. 「中田ナオト 出会いとひらめきの信楽時間」

＜開催期間＞5月8日（日）～6月12日（日）

マイヤー×信楽大賞展にて陶芸の森特別賞を受賞した中田ナオト氏による滞在成果発表展。オープニングにはアーティスト・トークを行い、作家同士または地域住民との交流を図る。

##### ウ. 「子どもたちの土の造形—本物との出会いから展」

＜開催期間＞7月16日（土）～8月28日（日）

小学校との連携授業や宝物づくり事業など、陶芸の森が他に先駆けて取り組んできた独自の普及啓発事業の成果を、子どもたちが制作した作品を通して内外に発信する。

##### エ. 湖国のやきもの 収蔵品紹介ビデオ「湖東焼」「信楽焼」上映

＜開催期間＞10月9日（日）～12月18日（日）

信楽焼の基礎的な歴史や技術を学ぶ展覧会。作品や道具などの実物資料のほか、解説パ

ネル展示やビデオ上映などを行い、信楽焼への理解を深めるとともに普及啓発に努める。

#### (8) 博物館実習

＜実施期間＞ 8月23日（火）～26日（金）

陶芸館では、平成7年度から実習生の受け入れを行っている。これまで関西圏を中心に21大学・122名を実習生として受け入れてきた実績を踏まえ、展覧会と普及啓発についての講義、また作品の取り扱いと梱包や調書の作成など、実物資料を扱う実技演習を行う。

#### (9) カタログ販売

これまでの特別展等の展覧会カタログをミュージアムショップで販売する。

## 2. 創作事業（アーティスト・イン・レジデンス事業（AIR事業））

国内外からスタジオ・アーティストの受入れ、ゲスト・アーティストの招聘を二つの柱として事業を行っていく。創作研修館オープン・スタジオや講演会、滞在作家によるギャラリー展示を積極的に行っていくことで発信力を高め、信楽焼の振興にも繋がるように務める。

また昨年度の国際シンポジウムのテーマであった、陶芸の森が国際的なレジデンスネットワークのハブ的機能を果たせるように、陶芸家の相互交流できるシステムの構築など、具体的なネットワークづくりに努める。さらに今年度は関西広域連合主催のAIR事業関連のシンポジウムの企画開催を受託することで国内のレジデンスとのネットワーク構築にも努める。

10月に開催される第3回信楽まちなか芸術祭では、滞在している作家による展示等を行うことで協力し地域振興に貢献する。

#### (1) スタジオ・アーティストの受入れ

例年同様に40人程度を受け入れる。滞在する作家による「創作研修館ギャラリー」での展示などを積極的に行い、ウェブサイト等での情報発信とあわせアピール度を高めていく。

またAIR事業のアーカイブとして情報閲覧室を活用し、やきもの相談員制度とあわせて技術面でのサポートの充実に努める。また陶芸の森の訪問者やスタジオ・アーティスト等を信楽在住の陶芸家やメーカーへの工房見学を積極的に行うことで信楽焼の担い手たちとの交流を活性化させる。

#### (2) ゲスト・アーティストの招聘

今年度は、10人のゲスト・アーティスト（継続を含む、うち3人は公募枠）を招聘する。また9年目を迎えたゲスト・アーティストの公募については、昨年の応募者は19人であったが、さらに各国からの応募者拡大と国内の新鋭の作家へのPRに努める。また11月には選考委員会を開催し優秀な作家の招聘に努める。

○ボディル・マンズ（デンマーク）3月～4月（推薦 H27年度から継続）

○ベンテ・ハンセン（デンマーク）3月～4月（推薦 H27年度から継続）

○マーサ・パッション（イタリア）4月末～7月初め（公募）

○武村和紀（日本）5月～9月（公募）

○ジョン・ペティージョン、テッシー・ペティジョン（フィリピン）6月末～8月（推薦）

○リズ・ウィリアムス（オーストラリア）9月～10月（公募）

○アッシュウィーニ・バハット（インド）1月～3月（公募）

○町田桂子（フランス在住）（公募 H26年度から継続）

○松井紫朗（日本）（推薦 H26年度から継続）

#### (3) 創作研修館オープン・スタジオ、ワークショップ、講演会の開催

地場産地対応として「創作研修館オープン・スタジオ」の日を設け、スタジオを公開し滞在



作家や職員によるレクチャーやワークショップを行って一般来園者や産地後継者とアーティストの交流を図る。また陶芸研究者による講演会等を開催し、「陶芸に関する考え方」の知識をA I R関係者や地域の陶芸関係者に教授する機会を設けレベルアップにつなげる。

◎オープン・スタジオ

矢部俊一 レクチャー	4月2日(土)
ベンテ&ボディル レクチャー	4月24日(日)
中田ナオト レクチャー	5月8日(日)
マーサ・パッション レクチャー	6月4日(土)
武村和紀 レクチャー	7月3日(日)
ジョン・ペティージョン レクチャー	8月7日(日)
町田桂子 レクチャー	9月3日(土)
アッシュウィーニ・バハット レクチャー	3月4日(土)

上記日程意外においても、積極的に講演会等を行う予定。

(4) 創作研修館等のギャラリーを基点とした情報発信、活性化

ここ数年、A I Rへの応募作家の大部分が海外勢で占められているが、国内作家の応募の確保に努める。また滞在作家が陶芸の森で制作した作品を創作研修館ギャラリーだけでなく、観覧者の来場が多い陶芸館ギャラリーや25周年記念事業で改修した旧藤喜陶苑をギャラリーとして活用することで、制作場所としての陶芸の森の魅力を伝え、A I R事業の認知度向上を図る。

10月に開催されるまちなか芸術祭にあわせて作品の展示を行う。

(5) 国内外の機関との連携

A I R事業では、これまで49カ国延べ約千人の作家が滞在制作を行った。25周年記念シンポジウムの成果をさらに高め、陶芸の森が国際的なネットワーク拠点となるためにアメリカへ職員を派遣し、平成29年3月に開催されるNCECA(全米陶芸教育者会議)でのプレゼンテーションや近年受け入れが減少しているアメリカで陶芸の森のPRを行う。受け入れが比較的多いアトリエ・ダール(フランス)や、台湾・韓国・中華人民共和国等アジア圏にある陶芸関連施設とも引き続き協力関係の強化に努める。

今年度は関西広域連合主催のA I R関連のシンポジウムを受託し開催する。日本独特の文化である陶芸をテーマに、国内の陶芸のレジデンスの交流活性化の促進を図る。その他各地の陶芸家を招聘しての短期ワークショップも開催する。

◎国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス」の開催

<開催日>10月22日(土)

<場所>滋賀県立陶芸の森 信楽産業展示館ホール

<テーマ>「陶芸をキーワードにしたレジデンスの国内ネットワークの形成について」

### 3. 「つつっこプログラム」／子どもやきもの交流事業

陶芸の森の特性を活かして、やきものに関する鑑賞教育や体験教育をさまざまな形で積極的に行う。学校との連携プログラムをさらに充実させ、信楽焼をはじめとした陶芸文化の普及や、陶芸の森へのリピーターを促進し、次世代に亘る陶芸の森ファンの獲得につなげる。

また、アール・ブリュットとして評価をされている障がいを持つ人々の芸術の素晴らしさは、滋賀県では陶芸作品から最初に見出されてきたことから、当館ではさらにその魅力を広く展示などで発信する機会を設けるとともに、その土の造形を造り出すきっかけを増やすという観点から、

「世界にひとつの宝物づくり事業」とともに、子どもたちや障がいを持つ人の造形活動を支援していきたい。

#### (1) 「本物と出会うー総合的学習プログラム事業」と宝物事業との連携

年々、本事業への参加校は増えてきており、陶芸や陶芸の森の素晴らしさを広めるために、学校への出張授業や児童・生徒が来園して作陶する来園プログラムを継続し、さらに美術館事業として内容を吟味しながら、新規プログラムの企画を進めていく。

本事業と「世界にひとつの宝物づくり事業」をあわせた「つちっこ」プログラムが、県教育委員会の「第2期教育振興基本計画」に位置づけられたことから、まずは甲賀市内の小中学校を中心に、新規の参加校開拓に努める。また、「つちっこ」での作品を、成果展として陶芸館ギャラリーで開催し、学校からだけでなく親とともに子どもたちが陶芸の森に来館することを目指し、来園者の新規開拓、展覧会への動員につなげるものとする。

- 連携授業の新規プログラムの企画など
- 連携授業の講師養成事業
- 学校からの来園プログラム
- 陶芸館ギャラリーを活用した連携授業の成果展の開催
- ねんどと遊ぶ事業

#### (2) 夏季研修会ー美術館との総合的学習のあり方を探る

##### 「世界にひとつの宝物づくり事業」と連携

<開催日> 8月2日(火)

学校教育や社会教育、美術館・博物館に携わる関係者を対象に、実際に本物に触れるなど、実践をとおして陶芸や美術が子どもの健全な成長に果たすための美術館の役割を考える。

この研修会では、展覧会で子どもたちの作品を展示することから、「ものづくりと身体性」をテーマとして、これまでの子どもたちのやきもの制作がどのような変化をもたらすのかを研究者らの講演を交えて考える機会とする。研修会実施にはMIHO MUSEUMと連携し、陶芸の森では展覧会見学とワークショップで構成する。事業運営は世界にひとつの宝物づくり実行委員会と連携をし、両者の広報活動の場としても活用する。

### 第3 産業の振興に関する事業

信楽焼の伝統技術を将来に継承する人材育成事業およびデザイン活性化事業、さらに信楽の陶器業界が運営している信楽産業展示館での展示等により信楽陶器産業の振興を図って行く。

人材育成事業として、信楽高等学校の支援事業や信楽焼の産業後継者を対象とした短期研修事業を積極的に行う。またデザイン活性化事業では、信楽焼の既成商品をベースに加飾等を加え、付加価値のある商品を試作する。信楽産業展示館でまちなか芸術祭の時期に開催される展示に出品することで信楽焼業界への提案を行いデザインの啓発の一環とする。

#### 1. 信楽産業展示館の活用

##### (1) 信楽産業展示館での展示

昨年度のデザイン活性化事業で制作した製品を「第3回信楽まちなか芸術祭」の際にブースを借り、展示紹介することで地元業界へデザインの提案を行う。

#### 2. 人材育成事業

##### (1) 信楽高等学校への支援事業

信楽高等学校との協議により、各学年に応じた学校での授業とは異なる視点に立った授業を陶芸の森で実施する。このことで、信楽高等学校の支援を信楽高等学校地域支援協議会等の地域団体と連携して行い、地域での人材育成に努める。

#### ア. 信楽高等学校デザイン系列研修

＜実施期間＞ 4月～5月頃

＜対 象＞デザイン系列3年生

伝統的な陶産地である信楽焼の将来の担い手を育成するために、信楽焼伝統工芸士によるやきものへの絵付け実習を行う。完成した製品については、甲賀市や県の公共施設へ設置し、信楽高等学校の活動と信楽焼のPRにつなげる。

#### イ. 野焼き体験実習

＜実施期間＞ 7月～8月（焼成 3時間）

＜対 象＞1年生

原始時代の土器などについて陶芸史で学んだことを実践させる。制作作業は学校で行い、乾燥した縄文式土器や弥生式土器をモデルにつくられた作品を陶芸の森へ搬入後、窯の広場にて野焼きを行う。

#### ウ. ワークショップの実施【新規】

＜実施期間＞ 3月

＜対 象＞1年生

信楽在住の若手作家と陶芸の森による現代陶芸のワークショップを実施し、作家が作品をつくるまでの思考プロセスの理解しながら進める。

#### エ. 登り窯で焼成するやきものの制作

＜実施期間＞ 9月の平日

＜対 象＞セラミック系列2年生

伝統的な登り窯で焼成する作品を信楽の作家やスタジオ・アーティストを講師として派遣し制作する。作家の指導を受けることで、質の高い作品作りを目指す。

#### オ. 登り窯焼成実習

＜実施期間＞10月

＜対 象＞セラミック系2年生

登り窯の焼成実習および釉薬による表現の追求をする。

### (2) 信楽焼の産業後継者を対象とした短期研修事業

#### ア. 陶によるアクセサリー制作の可能性

＜開催日＞ 6月～7月 講師：マーサ・パッション（イタリア）

＜定 員＞ 20人

近年、陶製の小物、特にアクセサリー類が注目されている。やきもののひとつの分野として定着しつつあり、今後展開の可能性はあるのではないだろうか。

陶芸の森に滞在中のゲスト・アーティスト、マーサ・パッション氏に講師を務めてもらい練り込みの手法により実際にアクセサリーを制作する。また、陶芸の森で数年前にスタジオから生まれた素材である「陶芸の森バージョンのエジブシャン・ペースト」を使ったアクセサリーの制作を行い、同素材の可能性をもさぐる。

#### イ. 中里隆によるうつわづくり

＜開催日＞ 1月～2月 講師：中里 隆（佐賀県唐津）

＜定 員＞ 5人/回 2日×2回開催

中里氏によるロクロ成形の指導いただき、作品は、2月に焼成するスイッチバックキル

ンで焼成する。また焼成の指導としてスイッチバックキルンを築窯した野口悦士氏が参画する。

### 3. デザイン活性化事業

#### (1) 既存製品への加飾によるデザイン提案

信楽のメーカーが製造するガーデンセットなど既存製品について、各種の加飾技法により新しい要素を加え付加価値をつけ、新しい商品に再構成することで、新たな商品の開発につなげるための表面デザインの提案を行う。

## 第4 企画事業

### 1. ミュージアムショップの運営

来園者に、より一層陶芸を身近に感じて頂けるようなサービスを展開する。

展覧会図録や陶芸関係書籍およびオリジナルグッズ、特別展関連商品など独自色のある商品の販売を行う。また併せてインターネットの活用したオンラインショップでの商品の提供や販売の促進に努める。

### 2. その他

#### (1) 自動販売機の設置

人々が自由に憩い楽しめるよう公園内に自動販売機を設置し、快適なサービスを提供する。

#### (2) 宿泊者用寝具の提供

創作研修館宿泊者用に寝具を提供する。

#### (3) 薪窯燃料の提供

穴窯や登り窯の使用者に対し、燃料を提供する。